

## 和歌之浦蒔绘读书架

这件漆艺读书架于 17 世纪创作，当时独特的金泽漆器风格仍处于发展初期。它的确切出处无从考证，但普遍被认为是清水九兵卫 (?-1688) 的作品。

清水出生于江户（今东京），并在那里学艺。17 世纪初，加贺藩主及显要艺术赞助人前田利常（1593-1658）邀请清水前往加贺藩（今石川县）进行艺术创作。清水与同为漆艺家的第二代五十岚道甫（1635-1697）密切合作，将加贺漆器发展为一种独特而繁荣的艺术形式。他们二人均为蒔绘大师。蒔绘是一种装饰技法，将金粉等金属粉末撒在软漆上来绘制图案。二人的作品誉满天下，因此“蒔绘”一词很快成为了优质加贺漆器的代名词。

统治加贺藩的前田家族拥有仅次于幕府将军的大量财富，他们利用自身资源发展文化事业。像这件读书架这样的奢侈器具就是为了彰显其财富和声望而创作的，它比人们日常使用的同类物品要华丽得多。

这件读书架刻画了和歌山县和歌之浦湾的景色。一千多年来，和歌之浦湾的自然美景为日本诗人和作家带来了源源不断的灵感。和歌之浦湾在 8 世纪的《万叶集》（现存最古老的日本和歌集）中多次出现。读书架上的图案让人想起一首《万叶集》中的短歌：

コメントの追加 [u1]: 【要確認】

これでは「二代」も名前の一部だと勘違いされないでしょうか。「第二代五十嵐道甫」が一般的な言い方だと思います（繁体字版のように）。念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT2R1]: 問題なくご理解いただけるとは存じますが、変更いたしました。

コメントの追加 [u3]: 【要確認】

「加賀漆器は "蒔絵" の代名詞となった」は「"蒔絵" は加賀漆器の代名詞となった」として訳されていますが、問題ないでしょうか。念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT4R3]: 英語の文章では、このような意味になっております。日本語ですと若干わかりにくい部分もありますが、「蒔絵といえば加賀漆器」というニュアンスが近いかと存じます。

和歌之浦，潮水涌动。

潮滩浸没，鹤鸣长空。

盘旋飞渡，芦苇重重。

如果仔细观察这幅图案，可以发现画面上一些元素以浮雕的形式凸起于表面，形成有纹  
理的立体效果。这是通过“肉合研出蒔绘”技法实现的，这种技法结合了“研出蒔绘”（磨  
光）和“高蒔绘”（增高）。在研出蒔绘技法中，漆艺家将金粉撒在湿漆形成的浅浮雕上来  
绘制图案。湿漆干燥后，便在作品上再涂抹一层黑漆或清漆。最后，用木炭将这层漆磨  
平，直至金粉图案显露出来，与新表面齐平。而在高蒔绘技法中，漆艺家先用漆和木炭  
或黏土粉料层构建表面设计，再添加金属粉末。风景蒔绘作品经常使用肉合研出蒔绘技  
法，为作品赋予立体的深度。

这件读书架还展示了与石川县密切相关的其他漆艺装饰技法，其中包括金银截金技法

（不使用金属粉，而是使用裁剪成不同形状的金属片）。这件作品制作精美，历代漆艺家  
都曾仔细研究其工艺，以磨练技艺。

这件读书架作为加贺蒔绘形成阶段的杰作，于 1998 年被指定为重要文化财产。

コメントの追加 [u5]: 【要確認】  
日本語の「(鶴・芦・浜辺など)」部分は反映しなくても大丈夫でしょうか。念のためご確認をお願いいたします。

コメントの追加 [VT6R5]: こちら、英語の文章には含まれていない内容のため、問題ございません。

コメントの追加 [u7]: 【要確認】  
これは「切削加工」ではないと思いますが。念のためご確認をお願いいたします。（ご参考に、012-021 などでは、「裁剪」は「切り出し」の訳語として使われています。同じことでしょうか）

コメントの追加 [VT8R7]: 英語からの多言語事業のため、「cut」というニュアンスで間違いございません。